

平成26年度の第四錦林小学校の教育

<学校教育目標>

よりよく生きるために、自ら考え行動する子を育てる

- 「よりよく生きるために」 … 学ぶ目的を明らかにして（人として豊かに生きるために）
「自ら考え」 … 自主的に・主体的に（他人任せではなく自分の考え・自分の意志で）
「行動する」 … 求めたいのは行動力（念じるだけでなく・願うだけでなく）

<めざす子ども像>

- | | | |
|-------|---------------|---------------|
| 勉強する子 | (確かな学力をつくる) | → 研究委員会を中心に |
| やさしい子 | (豊かな心をつくる) | → 人権教育委員会を中心に |
| 元気な子 | (健やかな体をつくる) | → 健康安全委員会を中心に |
| つながる子 | (人とつながる力をつくる) | → 生徒指導委員会を中心に |

<めざす教職員像>

～自ら考え行動する子どもを育てる

自ら考え行動する教職員～

- ・アイデアと実践力（温度差なく「共通実践」する）
- ・想像力と創造力
- ・子どもに向けるあたたかい眼差し
- ・誰一人見捨てない覚悟

<めざす学校像>

子どもを育てる具体的な取組がある学校

取組のないところに成果はない

<学校・P T Aの統一スローガン>

『すべては四錦の子どものために』

<今年度の重点>

◎授業で育てる

- ☆「最も指導が届きにくい子に届く授業は、すべての子の学力を向上させる」という考えに立ち、『焦点化児童』を設定し、授業を改善する。
- ☆授業で学級経営をする。子どもが学校で過ごす一日のうち、大半を占める授業時間を使う。
- ☆授業改善をする
 - ・子どもが活躍する授業。
 - ・「みんなで学ぶ」楽しさを実感させる。
 - ・指導すべきは指導しきる。(基礎的・基本的な知識・技能の習得)
 - ・生活科・総合的な学習の時間の充実(探究的な学習)

○子どもの声を拾う

- ☆子どもの声を教育活動等に反映させる。自律心と責任感の育成につなげる。
- ☆教師が決裁すれば時間はかかるないが、「キミはどう思いますか?」「どうしてそんなことをしたのですか?」等々、子どもの思いを聞く機会を大切にする。
- ☆「子どもの行動のうらには何らかの原因や理由がある」と考え、決めつけた指導は慎む。

○認めて褒めてやる気にさせる

- ☆子どもの自己肯定感を高める。認められ、褒められてこそ自分がわかる。
- ☆間違えてもチャレンジできるたくましさが、主体性のもととなる。

○授業や集団生活の規律を守らせる

- ☆やみくもに「守りなさい」ではなく、「なぜ、守らねばならないのか?」を考えさせる。
- ☆6年生が身近な手本として頑張れば、全校が高まる。

○子どものためになる、また教師のためになる授業等の交換をする

- ☆授業交換で学力を向上させる。
- ☆朝学習・健康観察・給食・清掃・ブクブクタイム・昼学習等の指導を交換し、指導をレベルアップする。

○子どもは大人のしていることを見て育つ

- ☆大人が、まず「かっこいいしきん」の実践者になる。
- 「言葉遣い」「身だしなみ」や「時間を守る」「約束を守る」などの範を示す。

○地域の教育資本を最大限に活用する(特色ある学校づくりをすすめる)

- ☆人材:教育活動に参画してくれる保護者・地域の人々・大学関係者・学生 等々
→「英語の四錦」を目指す
- ☆場所:鴨川・吉田山・京都大学総合博物館 等々
→「生活科」・「総合的な学習の時間」等の学習のフィールドにする

○全ての教育活動と目指す子ども像との関連を明らかにする

☆教育活動（行事・取組等）の「ねらい・めあて」を「つけたい力」とし、四つの「目指す子ども像」のうち、どれに迫るものなのかを明記し取り組む。

○取組の評価の具体的なものさしを明らかにする

☆評価のものさしとなる具体的な子どもの姿を明らかにして取り組む。

☆「どのような子どもの姿がみられたらよいのか」を明らかにする。→指導と評価の一体化

○保護者の願いや思いを十分に聞く

☆自分の考えを伝える前に、まず、保護者の話を十分に聞き、思いの芯がどこにあるのかを探る。

○保護者・地域との連携強化は間断ない情報発信から

☆「おたより」に学校で生き生き活躍する子どもの姿を温かな目線で記事にして載せる。